読売福祉文化賞

第21回 受賞6団体

今の時代にふさわしい福祉活動を実践している団体や個人を顕彰する「読売福祉文化賞」の受賞団体が決まった。今年で21回目を迎え、一般部門で不登校などの若者の自立支援のためのフリースクールを運営し、就労支援の場を提供する「NPO法人With優」（山形県米沢市）など3団体、高齢者福祉部門で高齢化率の高い大規模集合住宅で、長年にわたり高齢者のための交流サロンを運営し、介護予防プログラムやランチを提供している「NPO法人いこいの家夢（むー）みん」（横浜市）など3団体が選ばれた。読売新聞東京本社内で11日に表彰式が行われ、受賞団体に対して活動資金として100万円が贈られる。福祉の現場から時代に合った活動を紹介する。

時代に即した いこいと交流

【選考委員】（敬称略）

安藤雄太　東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー
栗原小巻　女優
袖井孝子　シニア社会学会会長
高木憲司　和洋女子大学准教授
馬場　清　日本福祉文化学会副会長
保高芳昭　読売新聞東京本社編集委員

主催　読売新聞社
　　読売光と愛の事業団
後援　厚生労働省
　　日本福祉文化学会

【一般部門】

NPO

泥臭を広げた

「失敗してもいい」「いつでも挑戦できる」職場を目指し、活動に理解のある人が利用できる会員制の居酒屋やカフェを13年以降に開設。働くことに不安のある若者らを受け入れ、接客などを学んでもらいながら、社会に一歩を踏み出す

団体が運営する居酒屋で就労経験者（左端）（11月22日、山形県米

CINEMA

所に障害者が当たり前にいなかったのは不自然だ」との思いで、16年にJR田端駅近くにユニバーサルシアターをオープンさせた。全作品に日本語字幕と音声ガイドをつけ、完全防音の鑑賞室や車いすスペースも備えている。

映画の感動を誰

検討中だという。平塚さんは「日常生活で知り合うことで、障害者の暮らしを人ごとではなく自分のこととして捉えられるようになるはず。そのきっかけ作りにも取り組みたい」と話している。

（社会部・中村桐佳）

NPO法人 Ch

る団員もいた。「枠にはめず、できることを伸ばそう」と5年目からオリジナルの脚本をスタッフが考案。個人の特性に合わせてセリフの内容を変え、発語が難しくても動きやダンスなどで表現できるよう工夫する。

現在の団員は20～49歳の

定期公演に向けて練習に励む神田さん（右）や団員ら（11月25日、北九州市で）

【高齢者福祉部門】

大槌刺し子プロジェクト（岩手県大槌町）

伝統手芸「刺し子」継承

一針ずつ丁寧に作業する女性ら（11月22日、岩手県大槌町で）

2011年の東日本大震災で被災した大槌町の女性たちによる伝統手芸「刺し子」の制作を通じて、作り手の居場所づくりや文化の継承を目指す。全国各地の事業者と共同で商品開発を行い、一針ずつ丁寧に作った製品が人気を博している。

刺し子は、重ねた布を細かく縫う東北地方の伝統技法。震災直後の11年5月、避難所でも作業できる刺し子を通じて、被災した高齢女性の生きがいづくりにつなげようと活動が始まり、同年8月からは海外で災害支援などを展開する「認定NPO法人テラ・ルネッサンス」（京都市）が運営する。

かもめをあしらった布巾やコースターなどをすべて手作業で制作。同時に、つらい気持ちが紛れたり、震災で疎遠になった人と会うきっかけになったりした。

現在は、主に60～80歳代の女性15人で活動。作り手の大沢美恵子さん(73)は「住まいの再建で大変だったが、刺し子のおかげで出会いが広がり、気持ちが明るくなった」と振り返る。

現地スタッフの黒沢かおりさん(46)は「製品を通して、ものづくりの良さや、コミュニティーの大切さを幅広い世代に伝えていきたい」と力を込める。

（盛岡支局・三品麻希子）

NPO法人 いこいの家夢（むー）みん（横浜市戸塚区）

高齢化団地に「居場所」

ピアノの伴奏で合唱する「歌声喫茶」の参加者たち（11月20日、横浜市戸塚区で）

横浜市戸塚区の約2300戸が集まる大型団地「ドリームハイツ」で、高齢者の交流や生活支援などに取り組む。今年4月には、幅広い世代の住民が楽しめる拠点「みんなの居場所　夢カフェ」も新設した。

活動の始まりは、有志が法人を設立する前の1996年に団地の1戸を借りて開いたサロン。「高齢者の居場所がほしい」との要望を受けたのが第一歩となった。その後は介護予防などに活動を拡大し、2014年に団地近くの空き店舗に拠点を移した。現在は歌声喫茶、パソコン教室、健康体操など多彩なプログラムを年間270日以上開催している。買い物、ごみ出しなどを住民が支援する「ボランティアバンク」も運営する。

団地は入居開始から半世紀ほど。住民は高齢化し、活動の担い手の中心も70歳代になった。若い世代にも輪に参加してもらおうと開いたのが第2拠点「夢カフェ」だ。資金をやりくりして、別の空き店舗を借り受けた。伊藤眞知子理事長(73)は「新たな挑戦をするなら今しかないと決断しました」と語る。まずは昼食の提供を中心に、新しい居場所づくりを進める。

（横浜支局・村尾潤）

社会福祉法人 まるこ福祉会（長野県上田市）

相談相手、余暇も充実

施設内のホールでボッチャを楽しむお年寄りたち（11月17日、長野県上田市で）

東日本大震災での支援活動を契機に、高齢者も交えて地域住民が互いに支え合おうと、運営する福祉施設のスタッフが中心となって活動を続けている。障害者も高齢者も「会ったら誰でも会話ができる」環境作りに努めている。

平均年齢が75歳という地元の高齢者有志30人が2015年、ボランティア団体「チームあったかい輪」を設立し、高齢者重視の活動を本格化させた。16年には施設内に「サロンあったかい輪」を開設。毎週月～金曜日、3人のボランティアのお年寄りが交代で、高齢者、不登校の児童・生徒や保護者らの相談相手となっている。

最年長ボランティアの清水美津江さん(87)は「生きがいを感じながら活動している」と笑顔で話す。家庭内の問題が解決し、子供が学校に復帰するといった効果も出てきた。

施設のホールでは、ヨガ、ボッチャの講座をはじめ、講演会やコンサートを開き、高齢者に開放。月替わりで写真展や絵画展を開くなど、活動の幅が広がる。

柳沢正敏理事長(73)は「今後とも高齢者を重視した事業を充実させたい」と将来像を見据えている。

（長野支局・浅野好春）

いつものコンビニでも、ごひいきに！
ごひいき！ 三陸常磐 キャンペーン
"GOHIIKI" SANRIKU JOBAN CAMPAIGN
× SEVEN ELEVEN　FamilyMart　LAWSON STATION
コンビニ3社同時開催！
お近く
三陸常
が
セブン-イレブン、
「いつものコンビ
各社オリ